　日本共産党議員団を代表して、議案第26号　令和3年度寝屋川市一般会計予算（第15号）の、原案に賛成の立場で討論します。

感染者等感染拡大防止支援金、児童・生徒等感染拡大防止協力支援金は寝屋川市独自の制度で、市民から大変喜ばれています。

陽性者となり自宅で隔離待機している間、家族も濃厚接触者となり、精神的にも、経済的にも大変負担が大きいものとなっています。寝屋川市は、配食サービスや買い物支援などの独自支援策はありますが、家計を直接的に支援する、感染拡大防止支援金は本当にありがたいものとして、市民から高い評価を得ています。

　今回、オミクロン株の感染拡大で当初の想定を上回る支援金の支給が必要となり、補正されたものです。

　この間、寝屋川市は、新型コロナ対策に使うことができるお金として令和元年度に20億円、令和2年度に23億円を財政調整基金に積んでいます。しかし現実には、コロナの臨時交付金を充当することでほとんど、財政調整基金は使われていません。財政調整基金はまさに、災害時に市民生活を守るために使われるものです。今使わないで、いつ使うのか。

今回、市独自の支援金で臨時交付金を超えて財政調整基金を使うことは新型コロナの災害時において当然のことであり、市民生活を守ろうとする市の姿勢を評価します。

また、今回の補正予算は法定受託事業である生活保護費の追加補正もあり、生活保護は市民生活を守る、最後のセーフティーネットであり、市民の命を守る重要な予算です。

新型コロナから市民生活を守る予算として原案に賛成するものです。以上、討論とします。